

Pauly, Théodore de

Description ethnographique des peuples de la Russie.

Saint-Petersbourg, F. Bellizard, 1862.

1 vol. 63 plates (litho col.). 54×41cm. <K383. 138-P> 文献番号 4-44

Hiler p. 691 Colas 2292 Lipper. 1367

ポーリー 『ロシア民族誌』

本書はロシア帝国建国 1000 年に当たる 1862 年に記念出版物として刊行されたものであるが、草稿は 1857 年に当時の国王であるアレクサンドル II 世（在位 1855-1881 年）に献上された国を挙げての出版物であった。

18 世紀のロシア帝国はピョートル I 世（在位 1682-1725 年）によって「西方への窓」が開かれ、ヨーロッパの進んだ文化が取り入れられた。科学、学術の分野においても、文字や暦法の改革、ロシアにおける最初の新聞発行、大学や専門学校の開設などロシア文化の基礎が創られた。

「科学アカデミー」もその一つで、パリやベルリンのアカデミーにならって 1725 年にペテルブルクに開設され、以後ロシアの学芸の中心となったところである。1749 年、ロシア科学アカデミーには歴史部門が設けられ、ここではカムチャツカの探検や帝国地理の作成など地理学、民族学の調査が着手されるが、その成果には目覚ましいものがあった。また考古学史料の蒐集や文献学の研究も行われた。

本書の評価が高いのは図版が優れていることもさることながら、巻末にこの科学アカデミーで制作された三つの重要な資料が発表されたことにある。一つは科学アカデミー解剖学美術博物館所蔵の小ロシア人、スウェーデン人、タタール人、カルムイク人、エスキモー人など 15 の主要な民族の頭蓋骨の標本を示した図版である。二つは「ロシア民族統計一覧」で、1859 年に会員ディルケール (R. d'Ereker) がロシア国内に居住する部族の人数を地域ごとに調査した、いわば人口統計である。三つは「民族分布地図」で、これも同じくディルケールが 1862 年にロシア国内に住んでいる人種を部族ごとに色分けをし、どこにどんな部族が居住しているかを現した着色の見開き地図である。これらの民族学的研究、とりわけ非スラヴ系、特にアジア系諸民族に関しては、本書において初めて詳細な調査と分析が発表されたもので民族学史上、画期的な研究として本書の価値を高めている。さらにこれらの新たな分野の研究は歴史学や経済学にも影響を与えた。

本文は五つの民族の章立てで構成されている。

1. インド・ヨーロッパ語族（図版 23 枚。スラヴ民族：ロシア人、セルビア人、ブルガリア人、ポーランド人、ラテン語系族：ルーマニア人、ペルシア人、アルメニア人、ロシアに居住するインド・ヨーロッパ語族：ドイツ人、スウェーデン人）
2. コーカサス民族（図版 6 枚。グルジア人、チェコ人）

3. ウラル・アルタイ語系族 (図版 27 枚。サモイア人, フィン人, モルドヴァ人, タター人, モンゴル人)
4. シベリア東部民族 (図版 4 枚。ユーカギル語族)
5. アメリカ・ロシア族 (図版 2 枚。アレウト語族 エスキモー語族)

各章では各民族・部族居住地の地理的な概況や民族的事項などが詳細に解説してある。ロシアは多民族国家であり、本文の構成でも分るように帝国ロシア時代の領土、すなわち旧ソ連邦の地域に加えてポーランド、チェコ、スウェーデンなどの東欧や北欧の一部を含み、ロシアのみならず東ヨーロッパの民族服も対象としている。

これまでの民族服文献はどちらかといえば、図版中心で解説は少ないようであったが、本書は解説に重点がおかれており、「民族誌」とタイトルが付けられているのも頷ける。

序文には本書に至るまでのロシア民族服文献の発達過程が述べられているが、特に「ロシア民族服」の古典といわれているゲオルギ画『ロシア帝国国民の生活様式の図集』(文献番号 4-39)の発行経緯に触れている。このゲオルギ版は 1770 年代の刊行で、出版当初は解説がなく、あまり評判はよくなかったらしい。本館には解説なしの図版をまとめたものが所蔵されているが、その図版は手彩色銅版画で描かれ、精緻で美しく、まことにみごとであり、本館所蔵のロシア民族服の本のなかでも最高の図版集と評価している。書誌によるとゲオルギは民族服を描いた画家と受け取れるが、本書では、彼は解説を書いた著述家で、画はロート (H. M. Roth) という版画家による、と記されている。だが、これにも諸説がある。

ともあれ、本書とゲオルギの民族服はロシア民族服文献の両雄といえよう。

図は 3 章のウラル・アルタイ語系族、フィン語派のヴォルガ川流域に住む諸族。この図版はリッパーハイデ服飾文献目録にも紹介されている。左のポーチのような袋を提げて籠を持った婦人はチュヴァシ族。となりの男性はモルドヴァ人。後ろ向きの婦人はチュレミス人。(平井)

